

第1回長崎大学における感染症研究拠点整備に関する 地域連絡協議会議事要旨

- 1 日時 平成28年5月12日(木) 10:00~12:00
- 2 場所 長崎大学グローバルヘルス総合研究棟大セミナー室(1階)
- 3 出席者数 24名 調(議長)、山下(副議長)、石田、久米、道津、松尾(寿)、
松尾(勳)、山口、原、神田、木須、寺井、藤原、泉川、里、鈴木、
福崎、蒔本、宮崎、村田、原田、高木、森田、早坂の各委員
- 4 欠席者数 2名 北島、江村の各委員
- 5 オブザーバー
小林秀幸(文部科学省研究振興局先端医科学研究企画官)
- 6 事務局(長崎大学)
阿南圭一(研究国際部研究企画課長)、嶋野武志(産学官連携戦略本部教授)
- 7 議事
議事に先立ち、調議長から、長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会(以下「地域連絡協議会」)の設置に至る経緯、設置目的等について資料1に基づき説明があった後、各委員へ委嘱状が手交された。

(1) 委員の紹介等

各委員から自己紹介があった後、調議長から、オブザーバーとして文部科学省から小林企画官が列席している旨の紹介があった。

次いで、地域連絡協議会規約第2条第7項に基づき、調議長から、副議長に山下委員が指名された。

(2) 長崎大学が進めている高度安全実験(BSL-4)施設を中核とする感染症研究拠点整備について

事務局から、資料3に基づき、長崎大学が検討を進めている高度安全実験(BSL-4)施設を中核とする感染症研究拠点整備計画案について説明があった後、委員間の討議については、委員からの要望を踏まえ、忌憚のない意見交換を行うため、非公開とする旨の説明があり、傍聴者は退席した。(ここまで公開。以下非公開)

傍聴者退席後、調議長から、事前に行った希望調査で、討議の非公開を希望する委員が多数いたため、今回は「討議のみ非公開」としたが、次回以降どうするかについては、会議終了後、再度委員の意見を聞いてから検討したい旨の補足説明があった後、大略次のとおり意見交換が行われた。

(以下、○は自治会長、△は地域住民、□は学識経験者、☆は行政、★は長崎大学、◇は文部科学省の発言)

- BSL-4施設の構造上の安全対策のところに、住居地から例えば10km~20km以上離れたところに設置する、という項目を加えてほしい。ただし、この数字に根拠がある訳ではないが、この距離によって住民が少しは安心出来る。これは住民からのお願いである。
- △ 仮に10km、20km離れた場所に設置することにしても、新たな候補地の近隣住民からも同じような話が出て、結果的に、施設の必要性はみんなが理解しながらも、設置場所がたらいまわしになってしまい、問題解決にならないのではないか。

- たらいまわしということではなく、住居地から離してほしいということである。
- △ 2つお尋ねしたい。①世界で稼働中の BSL-4 施設では動物実験を行っているのか。②頑丈な構造の施設、不審者やテロ防止対策、作業者の防護服着用など、嚴重なウイルス漏出防止策を講じる一方で、ウイルスの特性として「簡単に壊れる」「空気感染しない」等の記載があり、説明している内容に矛盾があるように思えて不信感がある。もっと具体的に教えていただきたい。
- ★ ①本学では小動物を使用した動物実験を計画しており、諸外国の施設でも実施している。②ウイルス自体は弱い、人に感染すると重篤な症状となるため、考えられる全ての封じ込め対策を講じたものが BSL-4 施設である。
- ★ 周辺住民のための安全対策はもちろんであるが、施設で作業する研究者自身の安全を確保するとともに、研究者に付着したウイルスの室外漏出の防止等のため、様々な対策を講じているものである。次回、正式に回答する。
- △ 熊本地震を受けて想定震度を6強から7に引き上げるなどの計画変更を行っているが、このように基準をコロコロと担当者の一存で決める仕組がよくない。国が責任を持った審査体制を作るべきである。「万が一」のことが起きた場合には誰が責任をとるのか。BSL-4 施設設置に関する国の体制は整っておらず、「万が一」のことを考慮すれば、住宅地からある程度離れた場所をどうにかして見つける必要があり、住宅地の真ん中に施設を造ることは無謀なことである。
- ★ 誰が責任を持つかは深い議論になるので、今後整理させていただきたい。
- △ 「万が一」のことが起きた場合は一大学が責任を負えるものではないので、国が設置認可の審査に当り、住宅地からの距離等の基準、手続等を決めた後でないとは設置できないのではないかと。
- ★ 「万が一」の一つの事例として、自然災害に備えた安全対策等を説明したものである。他にどういった「万が一」が想定され、その対応策をどうするかについては、今後本協議会で検討する必要があると考えているので、各委員からも想定される「万が一」についてご意見をいただきたい。
- 先ほどの質問の意図についての確認であるが、責任の所在を問いたいのか、基準がありさえすれば市街地に造ることは問題としないのか。
- △ 国が規制基準や規制委員会を作るなどの体制を整えた後に、長崎大学が申請して審査を受けるべきである、という意見である。
- △ 子供達の将来のためにも、長崎大学が発展し、長崎が活性化することを期待しているが、やはり「万が一」のことが心配である。「万が一」の捉え方は千差万別ではないかと思うが、私は、海外から病原体を保有した人が来崎して感染者が発生するということが可能性としては一番有り得るのではないかと考えている。
世界で稼働している BSL-4 施設では今まで事故が起きていないし、ウイルスは生体外では壊れやすく不安定とのことであるが、次回、長崎大学の BSL-4 施設で取り扱う予定の主なウイルスの感染方法、特徴等を簡単に教えていただきたい。また、BSL-4 施設又は BSL-3 施設を本協議会の委員で見学し、自分の目で見て安全性を確認し安心できる機会を設けていただけたらどうか。
- ★ 施設の見学については、是非検討させていただきたい。
- 施設が設置されたら土地の評価額が下落するのではないかと懸念がある。補償の話も出ていないし、毎日びくびくして生活しなければならなくなる。患者が発生した

ら病院が近くにあるので便利である、という単純なことではない。

狭い坂本キャンパスではなく、大村や諫早に設置することは出来ないのか。修学旅行生などの観光客も減ってしまうのではないのか。地域住民が困ったり、浦上地区がさびしくなったりしないような措置をお願いしたい。

△ 地価については、不動産鑑定士に見直しをお尋ねするのも一案ではないか。

△ BSL-4 病原体は生体外では壊れやすく不安定であり、空気感染はしないとのことなので、仮に地震等により施設の建物が壊れた場合に一番怖いのは、動物を飼育している機器が壊れて、感染動物が脱走することではないかと考える。動物を飼育する飼育棚や排気ダクト等の機器の強度等を教えていただきたい。

△ 長崎県、長崎市及び長崎大学の三者で「感染症研究拠点整備に関する基本協定」を締結し、三者連絡協議会を設置したとのことであるが、施設設置に対する長崎県及び長崎市の考えをお尋ねしたい。

☆ 長崎県としては、施設の必要性は一定評価しているところであるが、設置場所については、有識者会議の論点整理にもあるように、地域住民の不安を払拭し、ご理解を得たうえで進めるべきである、というスタンスで話し合いを行っている。

☆ 長崎市としても、先ほど話があったように国際的に脅威となる感染症が日本にも侵入する可能性が高まっている中で、国民の安全・安心に繋がる BSL-4 施設の必要性は認識している。また、長崎市は世界に貢献して評価される世界都市を目指しており、まちづくりの方向性にも合致したものであると考えているが、施設の設置にあたっては、安全性の確保及び市民のご理解が前提であるということには変わっていない。そのためには、国の関与が必要不可欠で、どのくらい関与していただけるのか、ということでも国の方にも長崎大学と一緒に申し入れているところである。

★ 関係省庁、関係自治体及び大学等から構成される検討委員会が内閣官房に設置され、国の関与について検討が始まったところであり、適宜、進捗状況を報告するとともに、本協議会からの要望等についても検討委員会に報告したいと考えている。

○ エボラ出血熱について、BSL-3 施設でも診断ができると聞いたことがある。既に BSL-3 施設は設置されているとのことなので、BSL-3 施設だけで対応できないのか。

★ BSL-3 施設で可能な診断もあるが、高度な診断は、BSL-4 施設の方が安心して診断することができる。診断法が確立していれば数時間で診断できるが、確立していない場合は診断に 2～3 日要することもある。感染症対策は早期発見、早期封じ込めが原則であり、診断法はあった方がよい。

□ やらざるを得ない状況になれば、技術的に可能性はあると思われるが、医師自身の感染も予防する必要がある、備えはしっかりしておくべきであると考えている。

○ 長崎大学病院には第一種感染症病床は 2 床しかないようであるが、アウトブレイクが起きた場合、どう対応するのか。

□ 新型インフルエンザのアウトブレイクが起きた場合のことを想定し、長崎県とともに対策を立てており、第一種感染症病床だけで足りない場合には、隣の結核病棟や感染症病棟等でも対応せざるを得なくなる。また、大学病院だけで対応できない場合には他の病院も総動員して対応することになり、フェーズ毎の対応について県や国とともに対策を立てており、シミュレーションも定期的に行っている。

○ 2 年程前、連合自治会の理事会で BSL-4 施設に関する意見を聞いた時は、坂本キャンパスに近い方では反対の意見も多かった。地域や理事会等で今日の話をしたくと考

えている。

- 自治会の中ではこの問題について話し合いをしたことはないが、役員会で施設設置に関する説明を聞いたことがある。説明を聞いたことで私自身は施設の必要性や長崎大学に設置することのメリットはよく理解できたが、説明を全然聞いたことがない住民は何も分かっていない。したがって、危険なものを設置するが賛成か反対かと問われたら、どちらかと言えば反対となってしまう。未だ何も知らされていない一般の住民の方にも何とかして内容を知らせたうえで判断していただかないといけないのではないか。今話し合っている内容をどうしたら一般の人に伝えることができるか、その手立てを是非考えていただきたい。
- 当自治会では、これまで長崎大学に説明会を2回開催していただいた。1回目より2回目の方が理解が深まり、かなり内容は理解できたのではないかとと思っている。先月の市民公開講座終了後には、熱帯医学ミュージアムを見学させていただいた。私としては、賛成とか反対とか言う前に、話も聞いてもらって、見られるものは見せて、と考えているので、夏休みに子供会の子供達にミュージアムを見学させ、BSL-4 施設について理解してもらうことを考えている。

★ 最後に、小林企画官から何かご発言があればお願いしたい。

- ◇ 設置主体は長崎大学であるが、内閣官房、文部科学省、厚生労働省等の関係省庁が一体となって支援していくという観点から先般「感染症研究拠点の形成に関する検討委員会」を設置し、関係省庁間で現在、国としてどのように長崎大学の取組みを支援、指導・監督していくのか議論しているところである。本日の協議会での様々な意見についても持ち帰って共有し、引き続き議論させていただきたいと考えている。

(3) 議事運営について

① 会議の公開・非公開について

次回の会議の公開・非公開について議論を行ったところ、公開、非公開の両方の意見があり、後日、各委員の意見を聴取し、事務局で検討することになった。

② 次回の進め方、その他要望等について

調議長から、次回の本協議会は、本日出された質問に対して回答するという形式で行いたい旨の提案があった後、今後の進め方について、各委員に意見を求めたところ、宮崎委員から、本日の議論は一年前の有識者会議の議論と重なるところが多い感じがするので、次回、有識者会議の議論のポイントとなる部分を資料として配付して欲しい旨の要望があった。

③ 次回の開催日程について

特に委員からの要望はなく、事務局で日程調整を行ったうえで決定することになった。

以 上